

科目名	行動分析学特殊研究	担当者	マナベ 眞邊 カズチカ 一 近	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>ヒトの行動は、実体験による学習、観察による学習および教示による学習により変容します。この教示による学習による行動変容は、言語的に記述された行動随伴性に従う行動という意味で、ルール支配行動とも呼ばれ、ヒトに特有で効率的な学習を可能にしています。一方、誤ったルールの提示により誤った行動が形成・維持される場合もあります。行動分析学特殊研究では、自身の誤った言語的ルールにより形成された病理である鬱の形成メカニズムの基礎として注目されている「刺激等価性」の理解を目的とします。</p> <p>1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>1) 「ルール支配行動」について説明できる。 2) 「刺激等価性」について説明できる。 3) 鬱のメカニズムとしての「刺激等価性」と「ルール支配行動」について説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1) ルール支配行動の定義の習得 2) 刺激等価性の定義の習得 3) ルール支配行動の臨床的意義についての理解 4) 刺激等価性研究の発展史の理解 5) 刺激等価性研究における基礎と応用の関連の理解 6) 刺激等価性の臨床への展開の理解</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】(自主研究・レポート作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)。 図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>まずは、課題に従って基本教材と参考書を読み、草稿を仕上げ提出します。これに対して、修正・追記が必要であるかどうか教員から指示がありますので、それに従って、再度、修正・追記の上草稿を提出します。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。刺激等価性とルール支配行動の学習等において、資料収集・テキストの学習に 20 時間、レポートをまとめるのに 10 時間、manaba-folio を使用したレポートの遂行作業に 15 時間、計 45 時間程度の準備学修時間を要します。</p>		
スケジュール	<p>以下のスケジュールで学習を行います。</p> <p>前期：ルール支配行動の定義と研究史</p> <p>1) ルール支配行動の定義の理解 2) ルール支配行動の臨床的意義の理解</p> <p>課題 1 および課題 2 の草稿の提出期限は、それぞれ 7 月末と 8 月末にします。最終提出期限はいずれも学事歴で定められた日とします。</p> <p>後期：刺激等価性研究とルール支配行動研究の現在における意義</p> <p>1) 刺激等価性の基礎研究と応用研究の理解 2) ルール支配行動の基礎研究と応用研究の理解</p> <p>課題 1 および課題 2 の草稿の提出期限は、それぞれ 7 月末と 8 月末にします。最終提出期限はいずれも学事歴で定められた日までに提出するとします。</p> <p>心理学の基礎から応用まで学習は多岐にわたります。一回の草稿提出ですべて学習するのは困難です。早めに草稿を提出し、教員の指導を受けながら、学習を進めていきます。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	75%	<p>下記の点について評価します。</p> <p>1) 留意点に従って、課題について述べているかどうか？ 2) レポート提出システム (manaba) に掲載された資料を参考に書かれているかどうか？ 3) 「レポート提出のためのチェック項目」に従って書かれているかどうか？</p>
	観察記録	25%	<p>1) 締め切り直前ではなく、1 ヶ月以上の余裕を持って事前に草稿を提出し、十分な指導を受けたか？ 2) 草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているかどうか？</p>
履修者への要望	レスポナント条件づけや、オペラント条件づけ、ABC 分析など、行動分析学の基礎はすでに学習していることが必要です。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： Murray Sidman 教材名： “<i>Equivalence Relations and Behaviour: A Research Story</i>” ペーパーバック ISBN 978-0-96-233116-9 Cambridge Center for Behavioral Studies 1994 年 【紀伊國屋洋古書検索で¥14,312～ 海外取次 通常、6 - 8 週間程度で発送 アマゾン中古有】</p> <p>著者名： 眞邊一近 教材名： ポテンシャル学習心理学 (サイエンス社, 2019 年) ISBN:978-4-78191441-1 2,860 円</p> <p>第1 図書は、ヒトの言語行動や言語に起因する病理(鬱など)を理解する上で重要な概念の一つである Stimulus Equivalence (刺激等価性)の研究を最初に提唱し実証してきた著者が、刺激等価性の研究史をまとめた著書であり、刺激等価性を理解する上で欠かせない一冊である。 第2 図書は、行動分析学の基礎となる学習心理学の概説と、ルール支配行動による言語の病理について日本語で解説したテキストである。</p>
参考図書	<p>武藤崇『アクセプタンス&コミットメント・セラピーの文脈 臨床行動分析におけるマインドフルネスな展開』(ブレーン出版(株), 2006 年) ISBN:978-4-89-242836-4 3,500 円+税 ジェームズ・E・メイザー『メイザーの学習と行動』(二瓶社, 1999 年) ISBN:978-4-93-119968-2 4,000 円+税 ルバート・トルートマン著(佐久間徹・谷晋二監訳)『はじめての応用行動分析』(二瓶社, 1992 年) ISBN:978-4-93-119915-6</p>
履修上のポイント	<p>ルール支配行動の定義と臨床的意義を学ぶことを主眼として下さい。</p>
レポート課題 1	<p>行動変容を引き起こす3種の「学習」についてまとめよ。 留意点: テキストに掲載されている内容に基づいて、行動変容を引き起こす3種の「経験」についての概説を書いて下さい。</p>
レポート課題 2	<p>3種のルール支配行動とは何かについてまとめよ。 留意点: テキストに掲載されている内容に基づいて、ルール支配行動の定義についての概説を書いて下さい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： Murray Sidman 教材名： “<i>Equivalence Relations and Behaviour: A Research Story</i>” ペーパーバック ISBN 978-0-96-233116-9 Cambridge Center for Behavioral Studies 1994 年 【紀伊國屋洋古書検索で¥14,312～ 海外取次 通常、6 - 8 週間程度で発送 アマゾン中古有】</p> <p>著者名： 眞邊一近 教材名： ポテンシャル学習心理学 (サイエンス社, 2019 年) ISBN:978-4-78191441-1 2,860 円</p> <p>第1 図書は、ヒトの言語行動や言語に起因する病理(鬱など)を理解する上で重要な概念の一つである Stimulus Equivalence (刺激等価性)の研究を最初に提唱し実証してきた著者が、刺激等価性の研究史をまとめた著書であり、刺激等価性を理解する上で欠かせない一冊である。 第2 図書は、行動分析学の基礎となる学習心理学の概説と、ルール支配行動による言語の病理について日本語で解説したテキストである。</p>
参考図書	<p>武藤崇『アクセプタンス&コミットメント・セラピーの文脈 臨床行動分析におけるマインドフルネスな展開』(ブレーン出版(株), 2006 年) ISBN:978-4-89-242836-4 3,500 円+税 ジェームズ・E・メイザー『メイザーの学習と行動』(二瓶社, 1999 年) ISBN:978-4-93-119968-2 4,000 円+税 ルバート・トルートマン著(佐久間徹・谷晋二監訳)『はじめての応用行動分析』(二瓶社, 1992 年) ISBN:978-4-93-119915-6</p>
履修上のポイント	<p>第1 図書は、最初の章から順番に読んでいくことを勧める。また、第2 図書は、刺激等価性と言語の病理について日本語で解説されているので、第1 図書の中でいわれていることの根拠を理解する上で、第2 図書を読んだ後で第1 図書を読むと良いだろう。</p>
レポート課題 1	<p>刺激等価性について概説せよ。 留意点: 応用行動分析学は、基礎研究から得られた知見の上に成り立っています。基礎研究の重要性が分かるようにまとめて下さい。</p>
レポート課題 2	<p>参考図書であげているアクセプタンス&コミットメント・セラピー (ACT) への展開について概説せよ。 留意点: 関係フレーム理論におけるルール支配行動や刺激等価性の位置づけについて概説し、機能等価性についても言及して下さい。</p>

基本教材 1

第 1 回	行動分析学の基礎の学修
第 2 回	行動変容を引き起こす 3 種の「経験」の学修
第 3 回	言語行動（マンド、タクト、イントラバーバル、エコーイックなど）の学修
第 4 回	ルール支配行動（トラッキング、反トラッキング）の学修
第 5 回	ルール支配行動（プライアンス、反プライアンス）の学修
第 6 回	ルール支配行動（オーギュメンティング）の学修
第 7 回	言行一致訓練の意義についての学修
第 8 回	ルール支配行動の臨床的意義についての学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	刺激等価性の定義の理解
第 2 回	刺激等価性研究の基礎研究（動物研究等）の学修
第 3 回	刺激等価性研究の応用研究（特殊教育等）の学修
第 4 回	関係フレーム理論における「相互的内包」、「複合的内包」、「刺激機能の変換」の学修
第 5 回	関係フレーム理論における「関係」の学修
第 6 回	アクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）の学修
第 7 回	関係フレーム理論とルール支配行動研究および刺激等価性研究の関連性についての学修
第 8 回	行動分析学の基礎研究と応用研究の連関の理解
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証